

【第1会場】

※：WEB配信あり ：オンデマンド配信予定（※都合により配信しない場合がございます）

8：20～8：30

開会挨拶

8：30～9：20

問題症例から学ぶニューデバイスのトラブルシューティング

座長：戸叶隆司 順天堂大学医学部附属浦安病院循環器内科

柳下大悟 東京女子医科大学循環器内科

ディスカッサー：菅井義尚 福島県立医科大学会津医療センター附属病院循環器内科

CSPでのトラブルシューティング

浅見雅子

東邦大学医療センター大橋病院

リードレスでのトラブルシューティング

田中尚道

埼玉医科大学国際医療センター

〈要旨〉

近年、ペーシング治療領域は目覚ましい技術革新を遂げており、リードレスペースメーカーの登場や生理的ペーシング：左脚領域ペーシング (Left Bundle Branch Area Pacing: LBBAP) の急速な普及により、患者のQOLや予後の改善が期待されている。しかし、これらのニューデバイス特有の技術的課題や合併症への対応が求められている。本セッションでは、ニューデバイスに関して問題症例や合併症例を通じて、実践的なトラブルシューティングの知見を共有することを目的とします。

経験豊富な術者による症例提示をもとに、リスクの予測、発症時の対応やマネジメントなど具体的な対応策を議論します。

具体的にリードレスペースメーカーでは心穿孔やデバイス脱落、閾値上昇、抜去困難などの報告があり、また、刺激伝導系ペーシングでは適切な植込み部位の特定やリードの固定・安定性に関する課題が報告されています。

本セッションを通じて、より安全で質の高いペーシング治療を行うための実践的知識や問題症例の共有を通じて認識を深め、将来的な合併症の減少と治療成績の向上に寄与することを目指します。

9 : 25 ~ 10 : 15

一般演題 2

座長：遠田賢治 北斗病院循環器内科

須藤恭一 新都市医療研究会君津会いずみ中央駅ナカクリニック

ディスカッサー：細田順也 横浜市立大学附属病院循環器内科

O2-1 Micra と Aveir における留置部位別 QRS 幅および手技的特性の比較検討

長谷川瞬¹ 柳下大悟^{1,2} 菊池健介¹ 渡邊正之介¹ 松井優子¹ 可児邦広¹ 樋口 諭^{1,2}
庄田守男^{1,2}

1 東京女子医科大学循環器内科

2 東京女子医科大学循環器内科先進電気的心臓制御研究部門

O2-2 心室中隔壁 25mm の心アミロイドーシスに対して左脚エリア（左脚本幹）ペーシングに成功した 1 例

益城 惇¹ 住吉啓伸¹ 水上 暁¹ 中島聡良¹ 柴田瑛帆¹ 三石一成¹ 高野寿一¹ 大野真紀¹
植島大輔¹ 宮崎晋介² 笹野哲郎²

1 亀田総合病院循環器内科

2 東京科学大学病院循環器内科

O2-3 電池交換術後 9 年の経過でシステムリセットによる safety mode へ移行し oversensing による pacing 不全を生じた高度房室ブロックの 1 例

和田瑞貴 原 久男 廣井透雄

国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター循環器内科

O2-4 心筋症患者における除細動リードの中隔留置：デリバリーカテーテル法とスタイレット法の比較

桜井 卓 加藤寛之 山崎広大 山添伸二 都築一仁 須賀一将 太田智之 村上 央 加田賢治
坪井直哉

JCHO 中京病院循環器内科

10 : 20 ~ 11 : 10

Legend Remarks

座長：須賀 幾 医療法人須賀医院 / 須賀医院駅前ハートクリニック

Simple is Best

中里祐二

榊原サピアワーククリニック / 順天堂大学循環器内科

11：20～12：20  

ランチョンセミナー1 HeartLogic™で繋げるチームの輪：遠隔モニタリングが拓く心不全チーム医療の新時代

座長：池田礼史 埼玉医科大学国際医療センター心臓内科

剣 卓夫

済生会熊本病院循環器内科

鈴木まどか

順天堂大学大学院医学研究科

共催：日本ライフライン株式会社

12：30～13：00

ICD停止をどう伝える？～明日からの実践に活かすACPと緩和ケアの心構え～

座長：榎本善成 国立国際医療センター病院循環器内科

笹岡俊介 済生会横浜市東部病院臨床工学部/東京工科大学医療保健学部

近藤夏貴

埼玉医科大学国際医療センター 看護部

〈要旨〉

ICD(植込み型除細動器)の停止は、死を連想させることから患者・家族への説明や介入に対し苦手意識を持つ医療者も少なくありません。

本セッションでは、ICD停止を含む、緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の実際について、臨床現場の症例を交えながら具体的に紹介します。

明日からの実践に役立つ考え方や伝え方を学び、苦手意識を払拭するとともに、医療者としての心構えを養う機会とします。

穏やかで率直な雰囲気の中、共に「いざという時」に向き合う力を育んでいきましょう。

13：05～13：55

ニューデバイス（リードレス）・選択～将来的に

座長：中島 博 千葉西総合病院循環器内科不整脈センター

中村啓二郎 東邦大学医療センター大橋病院循環器内科

ディスカッサー：天満太郎 北海道大学病院循環器内科

村瀬陽介 小牧市民病院循環器内科

永島道雄

小倉記念病院循環器内科

小和瀬晋弥

横浜労災病院不整脈科

〈要旨〉

近年、リードレスペースメーカー(LP)は目覚ましい技術的進歩を遂げ、特に心房用リードレスペースメーカーの登場により、その適応は急速に拡大しています。

デバイス関連合併症の回避や、審美的観点(コスメティック)を重視する声の高まりもあり、患者・医療従事者の双方から高い関心が寄せられています。

一方で、従来のtransvenous DDDペースメーカーが標準治療となるべき症例においても、リードレスデバイスが安易に選択されている可能性が指摘されており、その適応の妥当性や選択基準について議論する場が必要でないかと考えております。

本セッションでは、リードレスペースメーカーと従来型ペースメーカー(TVペースメーカー)の「適応」「限界」「将来性」について、立場の異なる演者による講演をもとにプロコン形式による建設的な討論を行います。

本討論の目的は、「どちらが優れているか」を決めることではなく、各デバイスの適応を明確化し、患者ごとに最適な治療選択を行うための実践的な判断基準を構築することにあります。

また、セッションの冒頭および終了時に会場アンケートを実施し、参加者の意識や見解の変化を可視化します。

高齢者や感染リスクが高い患者における選択だけでなく、長期予後、電池寿命、Pacing induced cardiomyopathy、Blocked HFのリスク患者など、現場に即した判断の実態を共有・検討する場としたいと考えています。

14：00～15：30

羅針盤のない航海-植込み型デバイス治療における多職種連携の理想と現実

座長：矢崎義直 東京医科大学病院
梅津 努 筑波大学附属病院循環器内科／坂根 M クリニック
ディスカッサー：縮 恭一 筑波大学附属病院臨床工学部
有道真久 心臓病センター榊原病院
小峯怜子 独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院

当院の多職種連携による CIEDs 管理 ～デバイスナースはじめました～

畠山純子

東京医科大学病院内科外来

市立四日市病院のデバイス管理 ～課題と今後の展望～

藤川倫徳

市立四日市病院医療技術部臨床工学室

当院におけるデバイス管理と多職種連携

晴山信子

公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院

〈要旨〉

植込み型心臓電気デバイス (CIED) の管理は、医師のみならず看護師、臨床工学技士、リハビリテーション職など多職種による連携が不可欠です。特に遠隔モニタリングの普及とアラート対応の複雑化により、従来の単職種主導では限界があり、チーム医療の構築が求められています。

しかしその在り方に「正解」はなく、各施設は試行錯誤を重ねながら独自の体制を築いています。本シンポジウムでは、報酬体系や人材育成、職種間の境域意識など多職種連携を阻む課題に加え、実際に壁を乗り越えた成功事例や学びを共有いただきます。現場での葛藤や創意工夫から生まれたチーム形成の背景を掘り下げ、参加者が「自施設でも実現できる」と感じられるヒントを提示することを目指します。

本セッションが、多職種連携の理想と現実を見つめ直し、未来への羅針盤を描く機会となることを期待しています。

15 : 35～16 : 55

植込み型心臓電気デバイス患者への心臓リハビリスタッフの関わりを考える

座長：池田礼史 埼玉医科大学国際医療センター心臓内科
ディスカッサー：大澤翔太 順天堂大学医学部附属順天堂医院
大月幸恵 佐久大学

植込み型心臓電気デバイス患者への作業療法介入の実践と意義

武田智徳

医療法人恒仁会新潟南病院リハビリテーション部

CIEDs とリハビリテーションの現状と課題-理学療法士の立場から-

戸谷佳織

医療法人社団桜友会所沢ハートセンターリハビリテーション科

〈要旨〉

CIEDs患者においても、リハビリテーションスタッフの関与が注目されています。
このセッションでは、この分野でのリハの役割、OTによる肩関節可動域訓練とADL支援やPTによる運動リハの実践と課題などを中心に、リハビリテーションのエキスパート2名と多角的に議論します。

17 : 00～18 : 00

全体討論会（優秀演題賞選考セッション）

座長：福田元敬 多治見市民病院
中井俊子 日本大学病院循環器内科
成瀬代士久 浜松医科大学医学部附属病院循環器内科

SP1 不安感を訴える両心室ペーシング機能付き植込み型除細動器症例に対する多職種連携における作業療法介入の経験

高橋真央¹ 水村 翔^{1,2} 寺崎義貴³ 金井利沙³ 池田礼史⁴ 加藤律史⁴ 丸山 元⁵ 高橋秀寿⁵

1 埼玉医科大学国際医療センターリハビリテーション部

2 埼玉県立大学保健医療福祉研究科

3 埼玉医科大学国際医療センター看護部

4 埼玉医科大学国際医療センター心臓内科

5 埼玉医科大学国際医療センターリハビリテーション科

SP2 Anodal captureの判別にCan-RVringの心内心電図が有用であった2症例

服部哲斎¹ 加藤寛之² 岨 晃寛¹ 田邊星哉¹ 松井優人¹ 伊藤美帆¹ 池田裕紀¹ 水野貴仁¹
桜井 卓² 村上 央²

1 JCHO 中京病院臨床工学部

2 JCHO 中京病院循環器内科

SP3 ペースメーカーからCRTへのupgradeにおいてCornell product ([RaVL+SV3] × QRS duration)がCRT responderの予測因子となる

横森広樹¹ 根本尚彦² 矢部顕人² 安齋 均² 中村啓二郎¹

1 東邦大学医療センター大橋病院循環器内科

2 SUBARU 健康保険組合太田記念病院循環器内科

SP4 スクリュー型経静脈ペースメーカー植え込みから7年後に心房リードのdislodgementを認めた一例

渡邊正之介¹ 柳下大悟^{1,2} 菊池健介¹ 松井優子¹ 可児邦広¹ 長谷川瞬¹ 樋口諭^{1,2} 庄田守男^{1,2}
山口淳一¹

1 東京女子医科大学循環器内科

2 東京女子医科大学循環器内科先進電気生理部門

18:00～

表彰式・閉会挨拶